

令和6年3月25日

足立区立本木小学校

学校長 藤田 暁美 様

足立区立本木小学校

開かれた学校づくり協議会

令和5年度 学校関係者評価書

1 自己評価書全般について

コロナ禍がひと段落し、学校行事が段階的に戻ってきた。子供たちも以前と同様とは言えないまでも、通常の学校生活に戻ってきている。

様々な学校行事を通して、児童に大きな力と自己肯定感や達成感を与えることができた一年であったと感じている。

さらに、人権尊重教育校として、人権意識を高める教育に努めていて、児童自らが創作した人権標語のポスターを掲示し、自己肯定感の向上と他者をも大切にする心を養い、一人一人が尊重される学校を目指していることは評価が高い。

学校評価のアンケートからは、基礎学力の定着のための丁寧な指導に関しては高い評価がなされているが、意欲を引き出す授業の工夫については、児童からは評価されているが、地域からは児童の意欲を引き出していないと感じられている。児童の意欲をさらに向上させる工夫を進め、個々の授業力を高め、学校の教育目標「かしこい子 思いやりのある子 たくましい子」そして目指す学校像「子どもたちが輝く学校」の実現に向けて、さらに取り組んで欲しい。

2 重点的な取り組みについて

「確かな学力の定着」については、「基礎学力の定着のための丁寧な指導」や「意欲を引き出す授業の工夫」に関して、アンケートでは評価が高いが区の学力調査の結果と結びついていないため、さらなる改善が必要と考える。児童が安心して学習に取り組める環境づくり、学習における家庭との連携の取り組み、自ら課題を見つけ解決していく学び、つまずきを見つけ学び直しを行う自力解決タイム、AIドリ

ルの活用等の取組を工夫・改善することで成果を上げて欲しい。読書通帳や読み聞かせの取組では、本に親しむ習慣を身につけさせている。また、学習規律・生活規律の徹底として「学習5つの約束」「生活5つの約束」を守る指導をして効果を上げている。

本木小学校は、「令和4・5年度 東京都教育委員会人権尊重教育推進校」として研究を進め、11月には研究発表会において成果を発表した。次年度以降も、同研究校としての研究を深め、子供たちの授業や学校生活充実のために尽力してほしい。